

学校教育努力点推進計画

1 主 題

「自分らしく学び 自分について考える 太子っ子」の育成
～キャリアタイムの活用を通して～

2 主題設定の理由

昨年度は、「自分らしく学び 自分について考える 太子っ子」という児童像を設定し、個別最適・協働的な学びの充実を図っていった。導入の工夫に重点を置いた実践を行い、子どもたちの授業内容への関心を高め、主体的に学習に取り組む子どもを増やすことができた。

本年度より全市的に「キャリアタイム」が導入され、本校でも「基礎的・汎用的な能力」の育成に重点を当てる必要が出てきた。そこで、昨年度までの目指す児童像は変えず、切り口を「キャリアタイム」にして、迫っていくことにする。

3 基本的な考え

(1) キャリアタイム全体計画の具体化（1学期）

常時活動として、2学期以降の実践に向けて、教育活動の見直しを行う。毎月1回程度、学年で努力点部会を行い、「基礎的・汎用的な能力のうち、どの力の育成に関連するか」という視点で各教科・総合的な学習・道徳を見直す。部会を通して、能力の育成につながる単元や教育活動をつなげて体系化した「キャリアタイム全体計画」を各学年で作成し、次年度以降に引き継げるようにする。2学期以降は作成したものに随時付け足していく。

(2) キャリアパスポートの活用（1学期～）

昨年度までのキャリアパスポートの活用例、文科省・愛知県のキャリアパスポート例示を参考に、太子小の実態に合わせたものを作成していく。キャリアパスポートは、児童が立てた目標や、学びのプロセス、過去の自分を振り返るために作成するものである。過去の学びや自分の成長を振り返ることで、児童のキャリア形成の大きな一助になると考える。児童が肯定的に自分のことを見ることが出来るようになるためには他者からの肯定的な評価も欠かせないので、教員や友達・保護者など他者からコメントなどをもらう欄も適宜設けるとよい。作成したものは次年度に引き継いでいく。

(3) 育成する能力の見える化（2学期以降）

具体化したキャリアタイム全体計画を元に、各学年でキャリアタイムを実践していく。その際、教員だけでなく、子どもたちも「基礎的・汎用的な能力」を意識できるように、黒板に本時で身に付けさせたい能力のアイコンを掲示する。めあてを共有したり、振り返りを行う際も、そのアイコンを意識させたりするように工夫する。

育成すべき基礎的・汎用的な能力											
人	人間関係形成・社会形成能力		自	自己理解・自己管理能力		課	課題対応能力		キ	キャリアプランニング能力	
											

(4) キャリアナビゲーターの活用（2学期以降）

年間を通して、キャリアナビゲーターを活用して「本物のヒト・モノ・コト」に出会わせるようにする。生活科や社会科、総合的な学習の時間、道徳科等の時間を1学期の間で見直し、キャリアタイムと関連させられる単元を洗い出し、キャリアナビゲーターと相談しながら出会わせるものを学年で考える。